

2018年度スローガン

SENSE OF MISSION

の使命感

好循環で創る
世界都市「東京」



公益社団法人東京青年会議所
第69代理事長

石川 和孝

Ishikawa Kazutaka

新日本の再建は我々青年の仕事である

第二次世界大戦終結(大東亜戦争敗戦)間もない1948年、空襲により焼け野原となった東京のあるビルの焼け跡に3人の青年が想いつめた気持ちで集いました。その青年達は、五里霧中の中こう考えました。「自分達を中心となって活躍し、復興しなければならない家の仕事、会社が、そして国家が、自由主義体制の下におかれるのか、はたまた、社会主義化して行くのか、全くわからないこの世の中でわれわれの進むべき道を先輩諸公に聞いても、ある人は茫然として語るに足らず、ある方は、占領軍からにらまれることを恐れてか、語り数えてもらえぬとしたら、自分達でいつれにせよ生きる途を勉強する外ないではないか。そのためには自分たちで、将来をさぐりあてる団体を作ろうではないか。そしてその中で生きのこれる能力を身につけようではないか。」と。その使命感の下、1949年に48人の青年が新日本の再建に立ち上がり、東京青年会議所(当時は東京青年商工会議所)を設立しました。

破天荒な青年であれ

破天荒という言葉を知ると、悪い印象を持たれる方も多いたと思いますが、本来の意味は「今まで誰も成し遂げなかったことをすること」です。私達青年に求められていることは、何事にも綺麗さや完璧を求める姿ではなく、未来の青年達に対してより良い東京を残すために果敢に挑戦していく背中を見せていくことです。その姿は、使命感を持ち、常に破天荒であればこそ、青年経済人の団体としての存在意義であると考えます。是非、私達の青年らしい姿を見ていただく中で、明るい豊かな社会という未来を感じていただければ幸いです。

